

# 平成 26 年度 実績

社会福祉法人 兵庫県社会福祉事業団

兵庫県立こども発達支援センター

## 平成 26 年度 実績

### 1 診療実績

#### (1) 事前協議

受診希望者について市町窓口事前協議を実施し利用申込書を受け取る。(詳細は「利用の手引き」参照)

<月別事前協議件数>

	26年									27年			計
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
件数	23	25	40	54	32	35	44	33	30	27	32	29	404

※受診の有無に関わらず全件を掲載

<事前協議から初診までの日数>

日数	件数
～10日まで	8
11～20日	35
21～30日	33
31～40日	30
41～50日	25
51～60日	31
61～70日	43
71～80日	27
81～90日	29
91日～100日	27
101～120日	11
120日以上	12
その他	2
計	313

#### (2) 利用患者数

	26年									27年			計
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
初診数	29	21	23	30	27	23	32	23	27	29	25	24	313
再診数	185	199	195	233	215	218	243	195	214	208	211	256	2,572
利用延数	214	220	218	263	242	241	275	218	241	237	236	280	2,885

### (3) 初診患者内訳

初診患者に関する属性は下記の通りである。

#### <初診時年齢>

年齢	患者数
0歳	1
1歳	3
2歳	29
3歳	58
4歳	40
5歳	53
6歳	36
7歳	27
8歳	23
9歳	11
10歳	8
11歳	9
12歳	1
13歳	9
14歳	3
15歳以上	2
計	313

#### <性別>

性別	患者数
男性	241
女性	72
計	313

#### <受診の目的>

受診の目的	患者数
診断を受けたい	118
療育を受けたい	32
診断と療育を受けたい	127
気になる症状がある	5
セカンドオピニオン	7
その他	24
計	313

#### <紹介市町>

市町	患者数
神戸市	22
姫路市	1
尼崎市	1
明石市	114
西宮市	4
洲本市	0
芦屋市	0
相生市	0
豊岡市	1
加古川市	70
たつの市	3
宝塚市	0
三木市	24
高砂市	28
川西市	0
小野市	10
加西市	0
篠山市	1
丹波市	1
南あわじ市	0
朝来市	1
淡路市	0
宍粟市	1
加東市	1
猪名川町	1
多可町	0
稲美町	12
播磨町	16
福崎町	0
太子町	0
上郡町	1
計	313

< 診断 >

発達障害に関連する主たる診断名

(ICD-10 による分類)

疾患名	患者数	
PDD	65	20.8%
PDD+ADHD	15	4.8%
PDD+LD	2	0.6%
PDD+MR	57	18.2%
PDD+その他	12	3.8%
ADHD	7	2.2%
ADHD+MR	2	0.6%
ADHD+その他	1	0.3%
LD	7	2.2%
LD+MR	1	0.3%
LD+その他	3	1.0%
MR	61	19.5%
MR+その他	12	3.8%
その他	50	16.0%
評価中・未診断	18	5.8%
計	313	100.0%

※PDD：広汎性発達障害 (F84)

ADHD：注意欠陥多動性障害 (F90)

LD：学習能力の特異的発達障害 (F81)

MR：知的障害 (F70-74)

診断名が複数ある患者 113名 36.1%

知的障害の有無 (境界知能含む)

	患者数	
あり	170	54.3%
なし	143	45.7%
計	313	100.0%

「その他」の内訳 (重複あり)

	患者数
境界知能	35
表出性言語障害	3
言語発達遅滞	2
適応障害	1
不注意傾向	1
多動	3
反応性愛着障害	1
チック	1
吃音症	3
睡眠障害	1
聴理解不良	1
失調	1
協調運動障害	9
情緒障害	1
不登校	6
発達遅滞	1
診断保留	9
定型発達	3
育児不安	1
高機能	1
体重増加不良	1

従たる診断名（ICD-10による分類）

基礎疾患等（重複あり：保護者から申告のあったものに限る）

分類		患者数
D50-D89	血液および造血器の疾患ならびに免疫機構の障害	2
E00-E90	内分泌,栄養および代謝疾患	6
G00-G99	神経系の疾患	5
	てんかん：4 その他：1	
H00-H59	眼および付属器の疾患	12
	遠視：4 その他：8	
H60-H95	耳および乳様突起の疾患	6
	中耳炎：4 その他：2	
J00-J99	呼吸器系の疾患	15
K00-K93	消化器系の疾患	3
L00-L99	皮膚および皮下組織の疾患	8
M00-M99	筋骨格系および結合組織の疾患	2
N00-N99	尿路性器系の疾患	1
O00-O99	妊娠、分娩および産褥	2
	切迫仮死：1 羊水混濁：1	
P00-P96	周産期に発生した病態	46
	超低出産体重児：2 極低出産体重児：2 低出生体重児：31 その他：11	
Q00-Q99	先天奇形、変形および染色体異常	29
	停留精巣：4 心室中隔欠損症：3 ダウン症候群：3 その他：19	
R00-R99	症状、徴候および異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	21
	けいれん：20 その他：1	
S00-T98	損傷、中毒およびその他の外因の影響	3

#### (4) 保育実績

初めてセンターを訪れたこどもにまず保育士が出迎え、診察に同席し、こどもと個別で遊びながらこどもの特性を確認するために行動観察を行う。また、個別療育や集団コミュニケーション療法（別掲）では、各療法士と協働または保育単独で、こどもに合わせた遊びを工夫し発達を促す。

##### <診療>

	26年										27年			計
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
初診陪席	28	21	23	30	26	22	32	23	27	29	23	21	305	
再診陪席	25	30	24	43	32	26	30	20	30	26	48	49	383	
計	53	51	47	73	58	48	62	43	57	55	71	70	688	

##### <療育>

	26年										27年			計
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
作業+保育	6	9	5	4	3	3	4	1	2	2	1	1	41	
言語+保育	8	9	7	7	7	4	3	3	3	1	1	1	54	
保育のみ	4	0	2	2	6	4	5	0	5	4	5	7	44	
計	18	18	14	13	16	11	12	4	10	7	7	9	139	

#### (5) 心理実績

臨床心理士が心理検査を行い、こどもの発達の段階を客観的に確認し、支援の参考にする。面談では、具体的な対処法についてや、こどもの特性に対する理解を深めるために、本人や保護者と話し合う。また、必要に応じて、地域の園や学校と連携し、情報を共有してこどもへのバックアップを行う。

##### <心理検査数>

	26年										27年			計
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
心理検査数	19	14	19	22	21	23	24	17	17	9	20	20	225	
検査説明	2	0	0	1	0	2	1	1	0	0	1	1	9	

初診患者が発達検査を他機関で過去1年以内に実施済みである場合は、他機関で実施した検査を参考に当センター初診・再診時に陪席して行動観察を行い、評価を実施する。

<心理検査内訳>

		26年										27年			計
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
発達	対面式	K式	11	8	12	14	13	13	21	12	12	7	13	10	146
		WISC	7	5	3	7	7	7	2	4	3	1	6	8	60
		その他	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	2
	質問紙	津守	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		その他	1	0	4	1	1	2	1	1	2	0	0	1	14
人格		0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	2	
その他		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	
計		19	14	19	22	21	23	24	17	17	9	20	20	225	

<再検査>

		26年										27年			計
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
K式		0	1	0	4	4	5	5	4	3	2	3	3	34	
WISC		0	0	1	1	2	1	0	0	1	0	0	1	7	
その他		0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	1	3	
再検査計		0	1	2	5	6	7	5	4	4	2	3	5	44	
心理検査計		19	14	19	22	21	23	24	17	17	9	20	20	225	

診療開始から1年が経過した平成25年度から、再検査を必要とする患者には半年～1年程度の期間を開けて再度、心理検査を実施した。

<心理検査以外>

		26年										27年			延人数	実人数
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月			
診察陪席		40	38	53	33	58	45	34	30	33	45	43	48	500	311	
こども支援	カウンセリング	2	1	1	0	4	3	2	2	3	1	1	3	23	10	
	他	4	2	2	2	4	1	0	1	3	1	1	1	22	19	
保護者支援	面接	5	4	4	4	8	5	3	2	1	1	1	2	40	11	
	電話	26	34	40	21	12	21	16	13	13	13	9	5	223	135	
地域連携	電話	15	31	34	20	23	29	29	21	27	25	21	35	310	134	
	会議	4	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	3	9	7	

## (6) 療育実績（言語聴覚療法・作業療法）

言語聴覚士（以下 ST）、作業療法士（以下 OT）は、年齢や障害の程度、ニーズなどに対応した個別のリハビリテーションプログラムに基づいて、療育を提供している。治療時間と頻度は、対象者の障害状況や年齢、家庭の状況などを配慮して設定される。こどもの持つ機能や能力を伸ばすための直接的な関わりに加え、保護者に対しては、こどもの特性の理解を深めたり日常生活での具体的な対応を助言している。

### ①言語聴覚療法

初回評価では、国リハ式＜S-S法＞言語発達遅滞検査、質問-応答関係検査、学齢版言語・コミュニケーション発達スケール（LCSA）などの言語検査を実施し、こどもの言語能力とコミュニケーション力の評価を行っている。読み書きの苦手な児童には、小学生の読み書きスクリーニング検査を実施することもある。検査に乗りにくい乳幼児や検査の対象年齢を超えている児童には、あそびや会話を通して行動観察を行い、コミュニケーションスキルを評価している。

個別療育では、個々の課題に合わせたプログラムにより療育を実施している。主に、絵カードを用いた言語理解と表出を促す課題や、他者との関係を保ちながらコミュニケーション力を育むプレイセラピーを行っている。センターでの療育場面だけでなく、家庭や園でも取り組める課題や関わりの助言を積極的に行っている。

	26年				27年				計				
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月		12月	1月	2月	3月
初回評価件数	21	20	18	28	19	21	24	19	20	24	21	27	262
療育件数	56	56	57	65	60	56	65	53	60	59	53	67	707
合計	77	76	75	93	79	77	89	72	80	83	74	94	969

### ②集団コミュニケーション療法

こどもの年齢と困りごとによりクラスを編成し、STと保育士が担当して活動を行っている。集団コミュニケーション療法はそれぞれ1単位20分、1回の活動につき3単位で実施している。

目 的：小集団の中で同年代のこどもと一緒に活動することで、園や学校など集団場面で抱える問題点について評価する。また、活動を通して、他者に伝えることや尋ねること、他者と協力することなどを経験し、社会性の向上を図る。

期 間 ・ 回 数：こども1人ひとり個別に設定 概ね6回程度

頻 度 ・ 実 施 時 間：月1回、火曜日または水曜日 14:30～15:30

構 成 人 数：3～4名

内 容：自己紹介、自由会話、着席活動、ルールのあるゲーム、共同制作

担 当 職 種：言語聴覚士、保育士

	26年									27年			計
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
集団療育件数	0	0	3	4	4	4	6	6	6	6	5	6	50

### ③作業療法

初回評価では、遠城寺式・乳幼児分析的発達検査、日本感覚インベントリー（JSI-R）、日本版ミラー幼児発達スクリーニング検査（JMAP）、機能的自立度評価表（WeeFIM）などを用いて、こどもの運動、感覚、生活動作を評価する。

運動は、歩く・座るなどの姿勢と運動、手の使い方、スキップや縄跳びなどの協調運動、運動企画、ボディーイメージについて、感覚は、感覚の処理能力と知覚・認知能力について、生活スキルは、着替えや排せつなどの生活動作を確認しながら、問題がある場合はその原因を明確にし、対応を検討する。

療育では、評価をもとに目標とプログラムを立案し、こどもへのセラピーだけでなく、生活環境や活動への介入を行う。

	26年									27年			計
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
初回評価件数	20	22	18	25	19	20	26	17	21	23	20	26	257
療育件数	55	54	50	51	42	50	58	44	46	51	49	57	607
合計	75	76	68	76	61	70	84	61	67	74	69	83	864

## 2 事業実績

### (1) 出張発達健康相談

センターへの来所が困難で、医師による発達障害の診断・療育をうける機会が少ない地域に、センターの職員が出向き、児童の発達にかかる健康相談を実施する。

- ①対象者：乳幼児から概ね 15 歳までの児童で、発達障害の疑いがある者、又は発達障害と診断された者で、発達、情緒・行動面等の問題において課題を抱えている者
- ②対象地域：県内全域
- ③事業内容：相談及びカウンセリングの実施
- ④派遣職種：医師、臨床心理士（以下 心理士）、保育士等
- ⑤実施方法：市町からの要望を集約し、市町と協議のうえ年間出張計画を策定し、実施  
(費用は無料)

実施日	市町名	相談者数	派遣職種
26 年 6 月 20 日	小野市	4 名	医師、心理士、保育士
6 月 25 日	加東市	4 名	医師、心理士、保育士
7 月 4 日	たつの市	4 名	医師、心理士、保育士
9 月 26 日	朝来市	3 名	医師、心理士、保育士、保健師
10 月 3 日	南あわじ市	4 名	医師、心理士、保育士、保健師
10 月 17 日	三田市	3 名	医師、心理士、保育士、保健師
10 月 24 日	篠山市	2 名	医師、心理士、保育士、保健師
12 月 3 日	丹波市	3 名	医師、心理士、保育士、保健師
27 年 2 月 20 日	三田市	3 名	医師、心理士、保育士
2 月 25 日	たつの市	4 名	医師、心理士、保育士、保健師
3 月 6 日	南あわじ市	2 名	医師、心理士、保育士
8 市町 (11 回)		36 名	

### (2) 派遣発達支援（療育体制づくりの支援）

市町の要請に基づき、市町の療育体制を新しく整備する場合や現在の体制をより充実させる場合に、その計画や内容に対する助言等を行うため、センター職員を各市町に派遣し、療育体制づくりを支援する。

- ①対象地域：県内全域
- ②事業内容：市町の療育体制づくりへの支援、核となる支援機関への支援、派遣支援後の定期的なフォローアップ
- ③派遣職種：臨床心理士、作業療法士、言語聴覚士、保育士等
- ④実施方法：派遣を希望する市町から協議を受け、契約を締結のうえ派遣

実施日	市町名	派遣職種
26年 6月 13日	新温泉町	ST
26年 8月 22日	宍粟市	OT

### (3) 研修・情報提供等

こどもが成長発達する過程に携わる保健師や保育士、支援過程で関わる専門職の心理士、言語聴覚士等、支援者のスキルアップのため、センターの職員や外部専門家の特色を活かした研修を企画実施した。

①内 容：講義、実地研修

②対象者：保健師、保育士、支援員、心理士、ST、OT等

③講 師：こども発達支援センター職員、その他必要に応じ外部講師

④経 費：受講者負担（こども発達支援センターの研修受講料等徴収要領による）

#### <基礎研修>

実施日	テーマ・内容	参加者	講師	場所
26年 5月30日	[講義] 発達障害の基礎知識	35名	保育士、心理士	センター
6月5日	[実地研修] 療育場面見学 ふりかえり	4名	保育士、OT	
6月19日		4名	心理士、ST	
7月17日		3名	保育士、OT	
7月31日		2名	心理士、ST	
8月14日		4名	保育士、OT	
8月28日		2名	保育士、ST	
9月4日		4名	保育士、OT	
10月2日		4名	保育士、ST	
10月30日		2名	心理士、OT	
11月12日		[講義] 発達障害の基礎知識	30名	
11月20日	[実地研修] 療育場面見学 ふりかえり	3名	保育士、ST	
11月27日		2名	心理士、OT	
12月18日		4名	心理士、ST	
27年 1月15日		3名	保育士、OT	
1月22日		4名	心理士、ST	
2月5日		6名	保育士、OT	

<スキルアップ研修>

実施日	テーマ・内容	参加者	講師	場所
26年 7月 2日	発達障害のある子どもへの地域での支援	19名	OT、心理士	センター
8月 1日	発達障害のある子どもが幼児期に身につけたいこと	35名	医師、心理士、保育士	センター
9月 10日	支援の方法を広げるためのこどもの見方	16名	OT、ST	センター
10月 10日	検査や評価から見えるこどもの姿 ～結果を支援に活かすために～	28名	ST、心理士	センター
12月 10日	あそびからはぐくむコミュニケーション	23名	ST、保育士	センター
27年 1月 30日	児童発達支援のなかで見出すコミュニケーション支援	103名	特定非営利活動法人 子ども発達サポートセンター 泉 和男氏	明石市生涯学習センター 子午線ホール

<発達障害サポーター養成講座（児童期）>

ひょうご発達障害者支援センターの事業に参画して実施した。

実施日	テーマ・内容	参加者	講師	場所
26年 8月 29日	療育場面見学・ふりかえり	9名	ST、心理士	センター
9月 11日		8名	ST、保育士	
9月 25日		4名	OT、保育士	

<教育連携>

実施日	テーマ・内容	講師	研修会名
26年 8月 27日	兵庫県立子ども発達支援センターと兵庫県立清水が丘学園の紹介と見学	医師、 清水が丘学園 心理治療士 中村有生氏	平成 26 年度明石市立小・中・養護学校不登校指導合同研修会
12月 9日	発達障害について	医師	平成 26 年度県立特別支援学校初任者研修校外研修

<講師派遣その他>

年月日	テーマ・内容	講師	主催
26年 4月23日	発達に課題を抱える子どもへの支援 ～子ども発達支援センターの取り組み～	心理士	西神戸小児心身症研修会
9月20日	発達障害者への支援 ～発達支援は育児支援～	医師	神戸市医師会 第4回乳幼児健診研修会
12月4日	発達障害者への理解と対応	医師	兵庫県耳鼻咽喉科医会 福祉乳幼児医療委員会

<広報活動等>

- ・神戸新聞 平成26年7月5日朝刊 「県立子ども発達支援センター開所2年」
- ・平成26年9月9日 支援機関見本市（明石市立勤労福祉会館）に参加  
その他情報提供としてセンターリーフレットの作成、インターネットホームページ（<http://hwc.or.jp/kodomohattatsu/>）の更新等により、発達障害について情報を発信するとともに、相談窓口の紹介を行う。

(4) 市町連携強化事業

兵庫県の委託により、センターと市町担当部署との連携を強化するため、地域別に市町及び関係機関との連絡会を開催した。

実施日	テーマ・内容	参加者	場所
26年 12月12日	・神戸市・東播磨・淡路ブロック対象 ・各市町より発達障害のある子どもに対する支援体制の報告	市町、 子ども家庭センター、 健康福祉事務所、 ひょうご発達障害者支援センター・各ランチ	センター
27年 2月27日	・北播磨・丹波ブロック対象 ・各市町より発達障害のある子どもに対する支援体制の報告		
3月11日	・阪神南・阪神北ブロック対象 ・各市町より発達障害のある子どもに対する支援体制の報告		

(5) 発達障害児家族支援事業

兵庫県の委託により、発達障害児の家族会の交流会を開催し、情報交換とセンターPRを行った。

実施日	テーマ・内容	場所
26年 8月22日	・センターの現状報告と見学 ・各家族会から現状報告と課題の発表	センター
9月17日	・センターと家族会との連携の検討	

## (6) その他

### ①実習生の受入

学校名	実習内容	人数	時期	実習時間
神戸大学	OT 臨床実習	1名	平成 26 年 8 月	3 日間
兵庫医療大学	OT 基礎臨床実習	2名	平成 27 年 2 月	2 日間
神戸総合医療専門学校	ST 臨床実習	1名	平成 27 年 2 月	5 日間

### ②見学研修の受入

行政関係	6名	教育関係	4名
医療関係	2名	福祉関係	4名
その他	3名	計	19名

## 3 業績（学会・研究等）

### (1) 学会発表

- ・「県立こども発達支援センターの取り組みについて」太田秀紀、野中路子  
第 262 回 日本小児科学会兵庫県地方会（平成 26 年 5 月 24 日）
- ・「発達障害を疑い受診したが、定型発達であった 3 例についての考察」太田秀紀、野中路子  
第 24 回 日本外来小児科学会 大阪（平成 26 年 8 月 30 日）

<参考資料>

平成 26 年度：市町・圏域別センター利用状況（1）

圏域	市町	初診患者	%	圏域別	%
神戸	神戸市	22	7.0%	22	7.0%
東播磨	明石市	114	36.4%	240	76.7%
	加古川市	70	22.4%		
	高砂市	28	8.9%		
	稲美町	12	3.8%		
	播磨町	16	5.1%		
北播磨	西脇市			35	11.2%
	三木市	24	7.7%		
	小野市	10	3.2%		
	加西市				
	加東市	1	0.3%		
	多可町				
中播磨	姫路市	1	0.3%	1	0.3%
	神河町				
	市川町				
	福崎町				
西播磨	相生市			5	1.6%
	たつの市	3	1.0%		
	赤穂市				
	宍粟市	1	0.3%		
	太子町				
	上郡町	1	0.3%		
	佐用町				
淡路	洲本市			0	0.0%
	南あわじ市				
	淡路市				
阪神北	伊丹市			1	0.3%
	宝塚市				
	川西市				
	三田市				
	猪名川町	1	0.3%		
阪神南	尼崎市	1	0.3%	5	1.6%
	西宮市	4	1.3%		
	芦屋市				
丹波	篠山市	1	0.3%	2	0.6%
	丹波市	1	0.3%		
但馬	豊岡市	1	0.3%	2	0.6%
	養父市				
	朝来市	1	0.3%		
	香美町				
	新温泉町				
		313	(100%)	313	(100%)

平成 26 年度：市町・圏域別センター利用状況（2）

圏域	市町	診療	研修	出張発達	派遣発達
神戸	神戸市	○	○		
東播磨	明石市	○	○		
	加古川市	○	○		
	高砂市	○	○		
	稲美町	○	○		
	播磨町	○	○		
北播磨	西脇市		○		
	三木市	○	○		
	小野市	○	○	○	
	加西市		○		
	加東市	○	○	○	
	多可町		○		
中播磨	姫路市	○	○		
	神河町				
	市川町				
	福崎町		○		
西播磨	相生市				
	たつの市	○	○	○	
	赤穂市		○		
	宍粟市	○	○		○
	太子町		○		
	上郡町	○	○		
	佐用町		○		
淡路	洲本市				
	南あわじ市		○	○	
	淡路市		○		
阪神北	伊丹市		○		
	宝塚市		○		
	川西市		○		
	三田市		○	○	
	猪名川町	○			
阪神南	尼崎市	○	○		
	西宮市	○	○		
	芦屋市		○		
丹波	篠山市	○	○	○	
	丹波市	○		○	
但馬	豊岡市	○	○		
	養父市		○		
	朝来市	○		○	
	香美町				
	新温泉町				○
		20 市町	32 市町	8 市町	2 市町